

## 令和元年度 弘前大学海外協定校学生交流活性化事業概要

部局名 農学生命科学部

区分	内容
事業名	日本・中国の農産物・食品貿易に関するワークショップ
指導教員	農学生命科学部・教授 石塚 哉史
学生の所属及び人員	農学生命科学研究科 修士2年 2名(秦 少奇、永田 貴一) 農学生命科学部 国際園芸農学科4年 2名(田代 琴見、手塚 大貴)
渡航先(渡航期間)	中国・青島農業大学(令和2年1月5日～令和2年1月11日)
	令和元年 10月1日～ 事前学習 令和2年 1月5日～ 中国山東省青島市渡航 " 1月6日 青島麦酒視察 " 1月7日 青島AEON視察、JETRO青島プリーフィング " 1月8日 青島農業大学訪問、構内視察、合同ゼミ(研究発表) " 1月9日 青島農業大学訪問、合同フィールドワーク(卸売市場視察) " 1月10日 帰国(東京泊) " 1月11日 帰青 " 1月12日～ 報告書取り纏め及びレポート作成
事業の概要 ※ 本事業の成果等がはっきりとわかるように記載してください。	1. 事業概要： 本事業は、東アジア圏内におけるフードビジネスの広域化・活性化が進展する中で、野菜・加工食品の最大貿易相手国である中国において大学でのワークショップ、食品企業・小売業および貿易関連機関等での視察研修を合同で実施することを通じて、日本産、青森県産農産物・食品および食品企業の競争力の強みを見出すことに対応可能な人材育成を行った。
	2. 教育目標： 東アジアフードチェーンの中心的な役割を果たす中国の農林水産業、食品製造業の先進的な取組を示している現場に農学関連学部が学生が触れることは、今後の日本および青森県農林水産業が国際化を目指す上で必要なアクションと考えられる。特に中国は野菜の対日輸出量が第1位であるだけでなく、日本からの農林水産物・食品の輸出相手国・地域としても第3位であり、輸出・輸入の双方で重要な位置づけにある。こうした貿易相手国の農産物や食品の生産・流通・消費の現段階を学ぶ事は、日本国内や青森県内への貴重な情報提供が可能となる。それに参加者が国産、青森県産の優位性を見出すよ研究へ取り組むようになれば国内産地の持続的発展にも大いに貢献できよう。
	3. 交流内容等： 本事業は、①訪中以前に参加者が主体となり、日中間の農産物・食品貿易、日系食品企業の中国進出に関する文献の輪読、統計資料の整理を行い、理解を深める。②青島農業大学学生・教員と本学参加者の共同参画による日中間における農林水産業・食品の生産・流通・消費の在り方についてワークショップを開催した。とりわけ、両国の相互関係や国際分業の目指すべき方向について焦点をあてて現状と課題を整理し、今後の展望を検討した。③JETRO青島事務所、青島麦酒、AEON青島、城陽区卸売市場等においてフィールドワークを実施した。
	4. 期待される成果等： 本事業の実施により、日中双方の食料問題やグローバル化に伴うメリット、デメリットを理解し、その解決方法に関心を持ち、関連業種への就職を希望する院生が増えれば、農業・食品関連産業の国際化対応を担う人材を本学から社会に送り出すことに繋がると考えられる。

交流の様子  
※ 事業実施の様子がわかる写真を貼り付けてください。(最大6枚まで)



【写真1：青島麦酒工場視察】



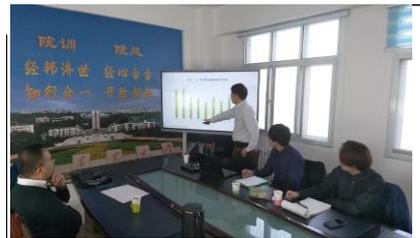
【写真2：青島麦酒博物館視察】



【写真3：JETRO青島でのブリーフィング】



【写真4：青島農業大学構内視察】



【写真5：青島農業大学でのゼミの様子】



【写真6：青島国際農業生命智彗視察】

本事業による  
成果等

本事業に参加した院生・学生は、野菜・加工食品の最大貿易相手国である中国において大学でのワークショップ、食品企業・小売業および貿易関連機関等での視察研修を合同で実施することを通じて、東アジアフードチェーンの中心的な役割を果たし、成長著しい中国の農林水産業、食品製造業のダイナミズムの現場を体感することができた。こうしたアクティビティは、今後の日本および青森県農林水産業が国際化を目指す上で必要なアクションであるものと考えられる。特に中国は野菜の対日輸出量が第1位であるだけでなく、日本からの農林水産物・食品の輸出相手国・地域としても第3位であり、輸出・輸入の双方で重要な位置づけにある。こうした貿易相手国の農産物や食品の生産・流通・消費の現段階を学ぶ事は、日本国内や青森県内への貴重な情報提供が可能となることが容易に想定できるため、参加した学生・院生が国産、青森県産の優位性を見出すことに関心を持って研究へ取り組むようになれば国内産地の持続的発展にも大いに貢献できよう。